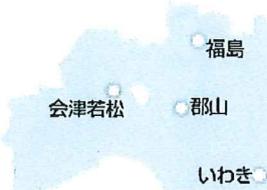


福島



福島支局
〒960-8063 福島市柳町4-29
電話024-523-1204 F a x 523-1207
メールfukushim@yomiuri.com

郡山支局
〒963-8878 郡山市堤下町1-63
電話0246-23-0011 F a x 23-0012

いわき支局
〒970-8026 いわき市平藪川町4-3
電話0246-23-0011 F a x 23-0012

会津若松支局
〒965-0042 会津若松市大町1-8-5
電話0242-22-8016 F a x 22-8017

南相馬通信部 0244-24-4061

ホームページ

www.yomiuri.co.jp/local/

購読は **0120-4343-81**

福島 557-3364	会津若松 25-0601
郡山 922-2210	いわき 25-2537
白河 23-2539	須賀川 73-2757
喜多方 24-5081	原町 23-3551
相馬 35-2613	二本松 22-2325

【読売会事務局】
福島東 (いわき) 24-2911
福島西 (郡山) 931-2216
【広告】読売エージェンシー 522-4541

【折込広告】
宮城読売 I S 福島支社 (郡山) 923-7876

9月6日(月曜日)
旧 7月30日<赤口>

■ 月齢28.5 (正午)



福島	小名浜
日出 5.12	満潮 2.48
日入 18.00	干潮 16.26
月出 3.52	干潮 9.43
月入 17.55	21.53 (大潮)

「遊び」の機会 親子に提供

「つばさ会」は子ども食堂や親子の親睦を深めるためのイベントなどを企画する。新型コロナウイルスの影響で活動は制約されているが、コンサートや外遊びの機会などを親子に提供し続けている。

現在、会員は60～70歳代の男女19人。活動費は財団法人からの助成金、有志からの寄付などで賄っている。昨年7月からは、弁当を購入し、毎週火曜日に別の集会所でひとり親家庭向けに配るようになった。「一番は子育てしているお母さんを支えたい」。遠藤さんの真っすぐな思いが活動の原点になっている。

「つばさ会」は、子どもたちの健全育成のために活動する団体を支援する読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」の助成団体に選ばれた。

4人の会員が3時間ほどかけて約80人分の弁当を作った(6月17日、郡山市の小山田地域公民館で)



つばさ会 (郡山市)

6月17日夕、郡山市の小山田地域公民館の実習室から、香ばしい匂いが漂ってきた。女性4人がプラスチックの弁当箱を並べ、桜エビとシヨウワガの炊き込みご飯を手際よく詰めていく。任意団体「つばさ会」の会員たちだ。

午後6時を過ぎると、利用者が公民館に次々と姿を現した。「いつもありがとうございます」。そのうちの1人が弁当を受け取りながらお礼を言うと、会の代表・遠藤洋子さん(73)が「今日は人が少なく、『手抜き』でごめんね」とおどけてみせ、なごやかな雰囲気をつくり出した。



つばさ会は毎週木曜日、この公民館で「子ども食堂」を開いている。会員の多くは60～70歳代の女性だ。出来たての料理を館内の一室で食べてもらうのが本来の形だったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、昨年5月から手作りの弁当を配るようになった。子ども向けは無料で提供している。

4人の子を持つ市内の看護師の女性(42)はこの日、仕事帰りに訪れて弁当を受け取り、「仕事が終わってか

らだと、食事の支度も遅くなる。週1回のお弁当は本当に助かる」と話していた。遠藤さんは大学卒業後、福島市や郡山市などで小学校の教員として働いた。離婚を経験し、シングルマザーとして子育てをした経験から、育児と仕事を両立する難しさはよく知っている。2人の子どもには「いい思いをさせてしまった」との後悔もある。退職後には、子どもへの貧困を伝えるニュースが気になるようになった。 「助けを必要としている

子ども食堂で母親支援

陸上女子10000m決勝で力走する佐々木真葉選手(4日、国立競技場で) 杉本昌大撮影

「さんの応援」を力に変えて

さん(43)は「けがなく決勝

2021年(令和3年)9月14日(火曜日)

(第3種郵便物認可)

大玉の団体に助成金

読売光と愛 困窮世帯に食糧支援

読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」の助成先に、大玉村の一般社団法人「ちろる」が選ばれた。助成金は50万円で、困窮世帯向けのコメ購入費や人件費に充てられるという。

「ちろる」は2018年、福島第一原発事故の避難者支援や交流を目的に設立された。現在はほかに、生活困窮者や母子世帯などから「よろず相談」を受け、食糧支援や就労支援も行っている。

食糧支援については、相談を受けた世帯の中から必要性を見極めて行っており、3年間で延べ200世帯以上にコメを配ってきた。相談者には当面の食事の心配をせず、生活再建に取り組んでもらおうと、一度に30キログラムを渡すようにしている。ちろる代表の鈴木有里絵さん(33)は「食糧支援を受けるまでも葛藤があるし、何度も助けを求めたことをためらう家庭は多

い」と話す。コロナ禍以降、「出勤日」を減らされて生活が苦しい。「コロナに感染して働けなくなった」など、困窮を訴える相談が急増。子どもからも電話が寄せられるという。鈴木さんは「地域のSOSを誰よりも早くキャッチして、食とメンタルの両面から支援を続けていきたい」と話している。県内では今年度、郡山市の任意団体「ほろろ会」も助成団体に選ばれている。

(第3種郵便物認可)

2021年(令和3年)10月5日(火曜日)

読売

読売

読売



オンラインで実施された研修会。弁護士兼産業カウンセラー(奥)が相談を受ける際のポイントなどについて説明した

チャイルドラインは39都道府県に拠点があり、18歳以下の子どもたちからフリーダイヤルやオンラインで毎日500件以上、年間20万件以上の相談を受けている。すぎなみは2014年に設立され、約20人のボランティアがいじめや家庭環境など様々な悩み

光と愛の事業団が支援

杉並の団体

子どもたちの育成に取り組み団体を支援するため、読売光と愛の事業団が創設した「子ども育成支援事業」の助成団体に、都内では子どもの相談に対応する「チャイルドラインすぎなみ」(杉並区)が選ばれた。

子ども悩み相談に助成

を抱えた子らと向き合っている。

同団体は、相談を受ける人たちの養成と技術向上のため、定期的に研修会を実施しており、9月は大学の准教授や弁護士が、発達障

害者支援法の内容やトラブルが起きた場合の対応などについて解説した。

10月には精神科医師による研修も予定している。柴田文恵代表(58)は「悩みを抱えた子に『一人じゃない』と感じてもらえるような伴走役を務めながら、問題を適切にくみ取って解決していきたい」と話している。

読売育英奨学会が説明会

大手町で10月、12月

読売育英奨学生制度の説明会が10月と12月、千代田区大手町の読売新聞東京本社で開かれる。

この制度は首都圏の読売センター(YC)で働きながら、大学や専門学校などに通う学生の学費を、読売育英奨学会が立て替えるもの。業務内容は、Aコース(朝夕刊の配達と集金)とBコース(朝夕刊の配達)などがある。A、Bコースは、学費とは別に給与・賞与が支給され、個室が無料で提供される。

立て替えた学費のうち、Aコース

は1年間につき130万円まで、Bコースは同110万円まで奨学金として返済が免除される。

説明会は10月30日(土)と12月11日(土)、いずれも午後1時から読売新聞東京本社で行う。完全予約制で、奨学会のホームページや電話で申し込む。

説明会は本人のほか、保護者も参加できる。自宅から会場までの交通費は、1家族につき2人まで支給する。当日は筆記用具と印鑑が必要。説明会の日時に都合がつかない場合は、個別相談やオンラインでの説明にも応じる。

申し込み、問い合わせは読売育英奨学会(フリーダイヤル0120・430・117)へ。



オンラインで実施された研修会。弁護士兼産業カウンセラー（奥）が相談を受ける際のポイントなどについて説明した

子ども悩み相談に助成

杉並の団体 光と愛の事業団 支援

子どもたちの育成に取り組み

団体を支援するため、読売光と愛の事業団が創設した「子ども育成支援事業」の助成団体に、区内では子どもの相談に対応する「チャイルドラインすぎなみ」（杉並区）が選ばれた。

チャイルドラインは39都道府県に拠点があり、18歳以下の子どもたちからフリーダイヤルやオンラインで毎日500件以上、年間20万件以上の相談を受けている。すぎなみは2014年に設立され、約20人のボランティアがいじめや家庭環境など様々な悩みを抱えた子らと向き

合っている。

同団体は、相談を受ける人たちの養成と技術向上のため、定期的に研修会を実施しており、9月は大学の准教授や弁護士が、発達障害者支援法の内容やトラブルが起きた場合の対応などについて解説した。

10月には精神科医らによる研修も予定している。柴田文恵代表（58）は「悩みを抱えた子に『一人じゃない』と感じてもらえるような伴走役を務めながら、問題を適切にくみ取って解決していきたい」と話している。

（写真）読売新聞社提供

（本文）読売新聞社提供

(第3種郵便物認可)

地域交流の食堂に助成

光と愛の事業団 北名古屋で弁当配布

子どもたちの育成に取り組み団体を支援するため、読売光と愛の事業団が創設した「子ども育成支援事業」の助成団体に、北名古屋市のNPO法人「アット・ユア・ホームひよこっこ」が選ばれた。

同法人は2017年、地域交流を目的に食事を無償で提供する「地域食堂サンクス」を始めた。月1回、市内の公共施設を借りて、地域の人たちと食事をしな

がら交流を図っている。同法人代表で、保育園を営んでいる富田晃代さん(48)は、「卒園した子どもたちと一緒に話したいと思い、食堂をやろうと考えた」と話す。

昨年はコロナ禍のため、公共施設が借りられなくなり、市内の保育施設「沖村ひかり園」に活動拠点を移した。現在は大勢が集まっ

ての会食はできないため、最大100食の弁当をつくら

助成金50万円は、食材保管用の冷凍庫や炊飯ジャー、弁当容器などに充てられる。富田さんは、「助成はすごく助かる。今後も活動を続けるために、新しく機材を整えたい」と話している。

小牧・長久手の戦い 解説書発行費募る

長久手市、ネットで

長久手市は、1584年(天正12年)に豊臣秀吉が徳川家康・織田信雄連合軍と戦った小牧・長久手の戦いを研究している地元団体を支援するため、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングを実施してい



弁当容器に料理を盛りつけるNPO法人のメンバー(北名古屋市で)